

GD-46シリーズ 戸別給水用減圧弁

取扱説明書

この度はヨシタケ製品を、お買上げいただきまして誠にありがとうございました。
お求めの製品を正しく安全にご使用して頂くために、ご使用になる前に必ず本文をお読み
ください。また、この書類は大切に保存して頂きますようお願いいたします。

-----本書の中で使用されている記号は以下のようになっています。-----



警告

取扱いを誤った場合に、使用者が死亡または重傷を負う危険の状態が生じることが想定される場合。



注意

取扱いを誤った場合に、使用者が軽傷を負うかまたは物的損害のみが発生する危険の状態が生じることが想定される場合。

目次

1. 型式	
1.1 型式説明	1
1.2 型式一覧表	1
2. 仕様	2
3. 寸法	
3.1 製品寸法及び質量	3
3.2 保温材寸法	4
3.3 オプション(圧力計)装着寸法	4
4. 流量特性線図	5
5. 騒音特性線図	5
6. 圧力特性線図	6
7. 作動説明	6
8. 設置要領	
8.1 配管図例	7
8.2 設置時の注意事項	8~9
8.3 水圧検査時の注意事項及び検査方法	10
9. 運転要領	
9.1 運転時の警告・注意事項	11
9.2 圧力調整時の注意及び圧力調整方法	11
10. 保守要領	
10.1 故障と対策	12
10.2 保守・点検時の警告・注意事項	13
10.3 分解方法	13
10.4 故障の処置方法	13
10.5 組立時の注意事項	14
10.6 ストレーナ掃除時の警告・注意事項及び掃除方法	14
11. 分解図	15
12. 梱包	
12.1 荷姿	16
12.2 梱包内容	16
アフターサービスについて	

1. 型式

1.1 型式説明

型式は一次側、二次側の接続・継手により下記のようになります。

(例)GD-46PLC(A)

| | | ↳ 設定圧力範囲
 | | ↳ 逆止弁[C:逆止弁付, 無印:逆止弁無]
 | ↳ 二次側の接続・継手[記号一覧表参照、但しSは除く]
 ↳ 一次側の接続・継手[記号一覧表参照]

注) 出入口管用平行おねじ(G1×G1)はGD-46とします。
 また、出入口本体めねじ(Rc3/4×Rc3/4)はGD-46Dとします。

記号一覧表

記号	一次側、二次側の接続継手
G	メーターソケット等に取り付けられる管用平行おねじ(G1)
P	P・V兼用またはP用コアに対応できるおねじ(R3/4)
L	兼用形(P・V 兼用)管端コアを内蔵しためねじ(Rc3/4)
K	管端コア無しめねじ(Rc3/4)
S	止水栓めねじ(Rc3/4)
D	減圧弁本体めねじ(Rc3/4)

1.2 型式一覧表

GD-46シリーズ

一次側の接続・継手 二次側の接続・継手		ユニオン無し	オスユニオン	メスユニオン		止水栓	本体めねじ	
		G	P	L	K	S	D	
ユニオン無し	G	GD-46	GD-46PG	GD-46LG	GD-46KG	GD-46SG	-	
オスユニオン	P	逆止弁無し	GD-46GP	GD-46PP	GD-46LP	GD-46KP	GD-46SP	-
		逆止弁付	GD-46GPC	GD-46PPC	GD-46LPC	GD-46KPC	GD-46SPC	-
メスユニオン	L	逆止弁無し	GD-46GL	GD-46PL	GD-46LL	-	GD-46SL	-
		逆止弁付	GD-46GLC	GD-46PLC	GD-46LLC	-	GD-46SLC	-
	K	逆止弁無し	GD-46GK	GD-46PK	-	GD-46KK	GD-46SK	-
		逆止弁付	GD-46GKC	GD-46PKC	-	GD-46KKC	GD-46SKC	-
本体めねじ	D	-	-	-	-	GD-46SD	GD-46D	

2. 仕様

呼び径	20A	
適用流体	水道水	
一次側圧力	1.0 MPa以下	
二次側圧力	(A)	0.05～0.10MPa (標準設定 0.09MPa)
	(B)	0.10～0.22MPa (標準設定 0.20MPa)
	(C)	0.20～0.30MPa (標準設定 0.25MPa)
弁前後の最小差圧	0.02MPa	
最大減圧比	10:1	
適用温度	管端コア無	5～90℃
	管端コア付	5～40℃
	逆止弁付	5～60℃
最小調整可能流量	0.5 L/min	
定格流量	逆止弁無	50 L/min(弁前後の差圧0.10MPa以上)
	逆止弁付	30 L/min(弁前後の差圧0.10MPa以上)
騒音	公共住宅事業者等連絡協議会 編集 「公共住宅建設工事共通仕様書」に準拠	
圧力確認機能	圧力計継手 (JIS Rc1/8)	
二次側耐圧	二次側最高使用圧力の1.2倍	

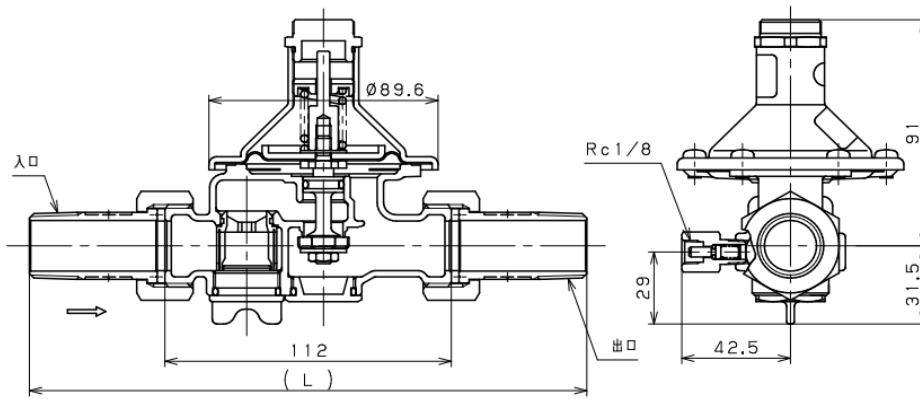
- 圧力計(A形, D形)はオプションです。(JIS R1/8 0.5MPa用)
- 圧力計の精度は±3%F.S.です。
- ストレーナ網目は60メッシュです。
- 出荷時は、減圧弁機能になっています。
- 保温材は難燃材を使用しています。

⚠ 注意

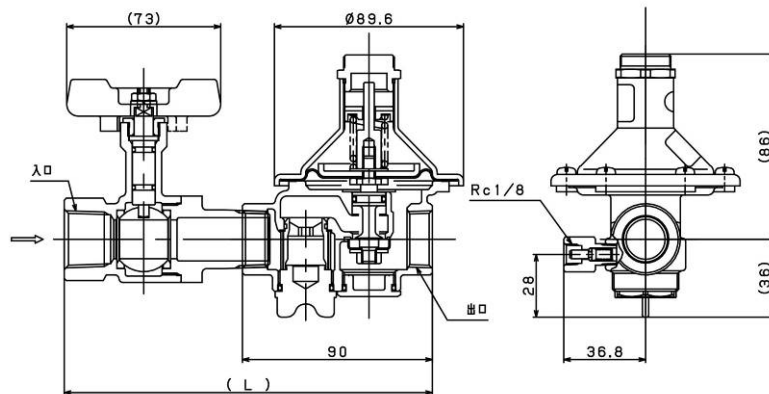
製品に付いているラベルの表示内容と注文された型式の仕様内容を確認してください。
※内容が違っている場合は、使用しないで当社にお問い合わせください。

3. 寸法

3.1 製品寸法及び質量

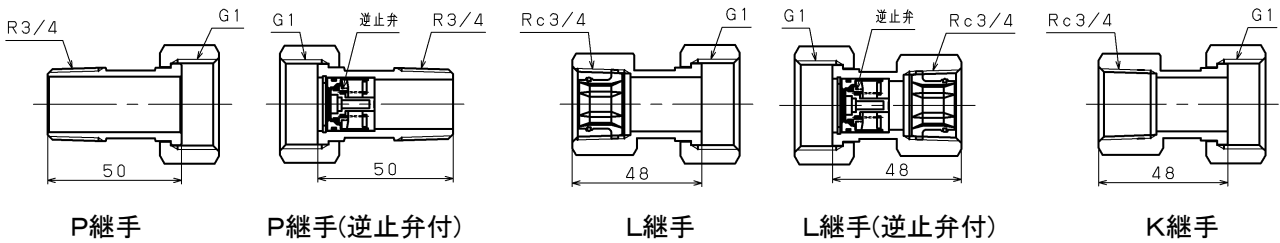


GD-46PP型



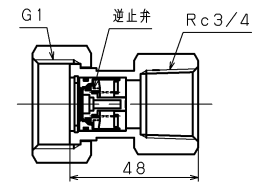
GD-46SD型

継手種類

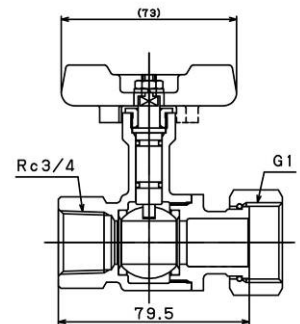


注) 製品の型式により接続・継手が異なります。

型式	接続	L	質量 (kg)
	入口×出口		
GD-46	G1×G1	—	1.0
GD-46PP・46PPC	R3/4×R3/4	218	1.4
GD-46LL・46LLC・46KK・46KKC	Rc3/4×Rc3/4	214	1.5
GD-46PL・46PLC・46PK・46PKC	R3/4×Rc3/4	216	1.4
GD-46LP・46LPC・46KP・46KPC	Rc3/4×R3/4	216	1.4
GD-46PG	R3/4×G1	165	1.2
GD-46GP・46GPC	G1×R3/4	165	1.2
GD-46LG・46KG	Rc3/4×G1	163	1.2
GD-46GL・46GLC・46GK・46GKC	G1×Rc3/4	163	1.2
GD-46SG	Rc3/4×G1	194.5	1.4
GD-46SP・46SPC	Rc3/4×R3/4	247.5	1.6
GD-46SL・46SLC・46SK・46SKC	Rc3/4×Rc3/4	245.5	1.6
GD-46D	Rc3/4×Rc3/4	90	1.0
GD-46SD	Rc3/4×Rc3/4	176.5	1.6

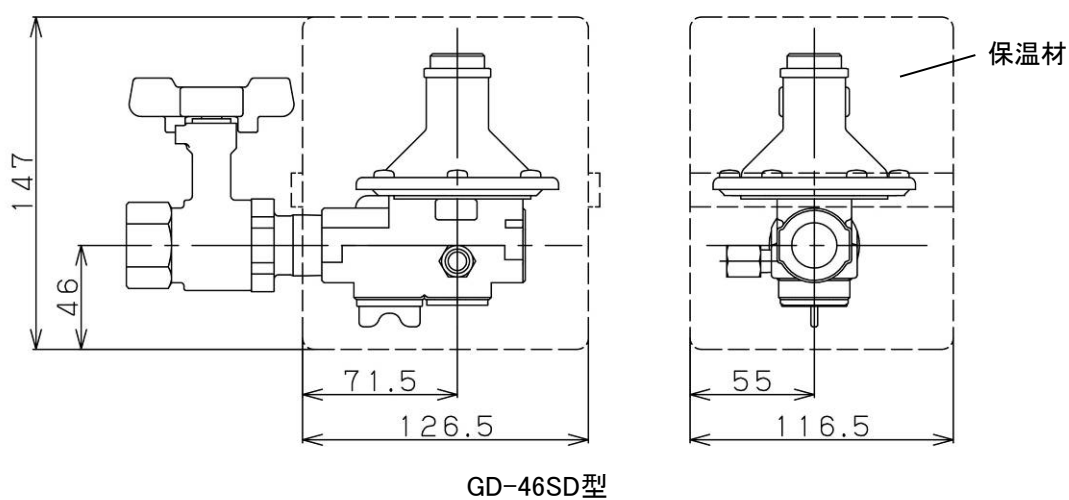
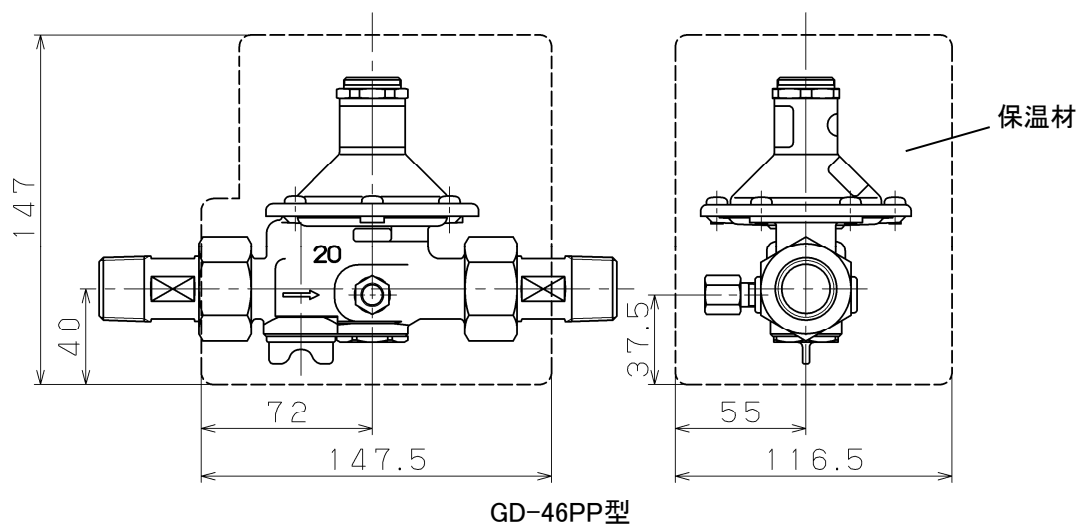


K継手(逆止弁付)



S継手(止水栓)

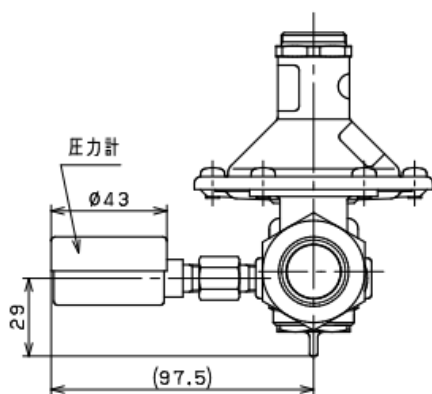
3.2 保温材寸法



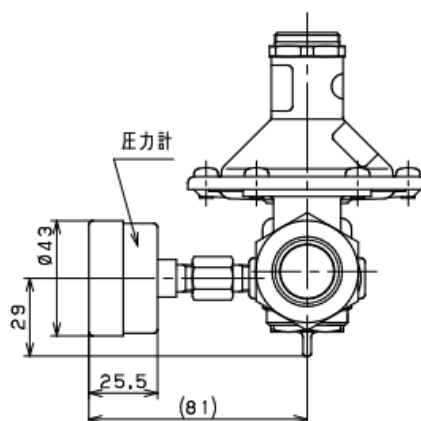
注) 保温材はGD-46D、SDとその他のGD-46シリーズの2種類です。
但しいずれも、止水栓には保温材が付きません。

3.3 オプション(圧力計)装着寸法

A形圧力計付

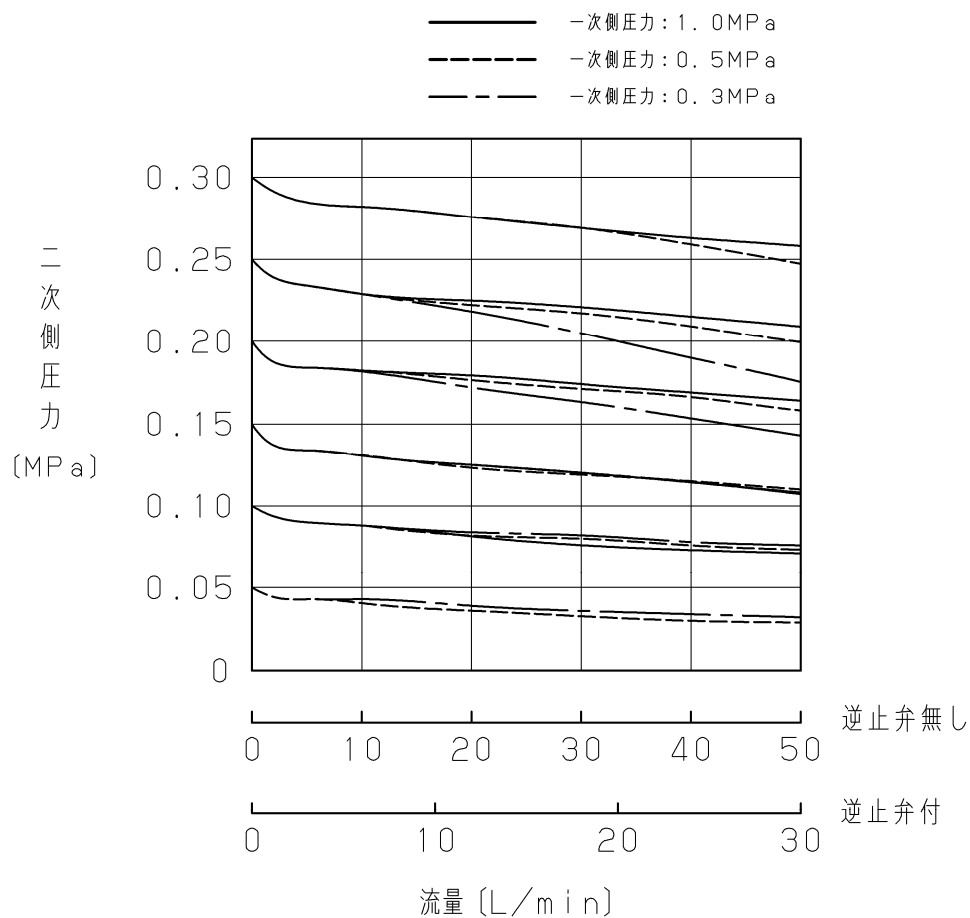


D形圧力計付

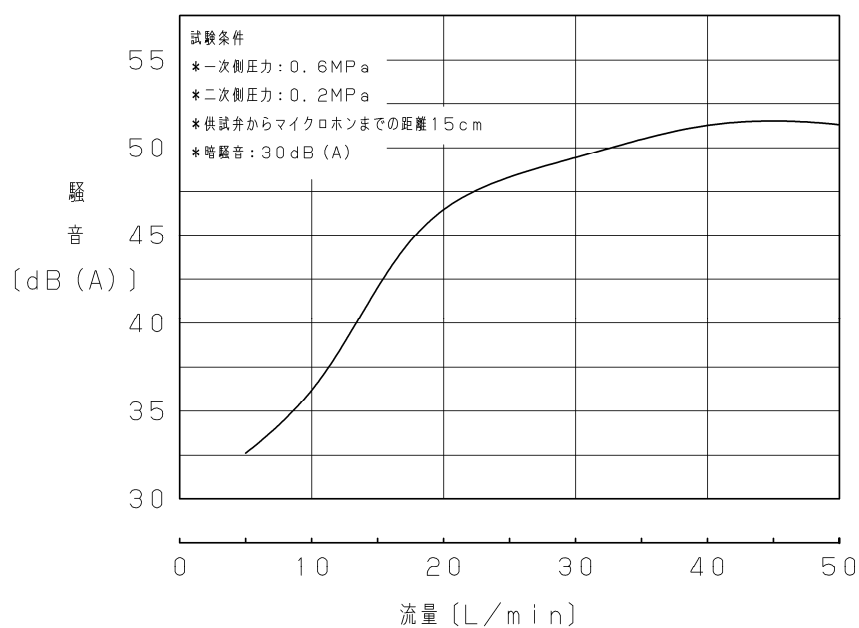


注) 圧力調整にあたり、上に示す寸法以上の空間を確保してください。
圧力を確認した後、必ず圧力計を取り外してください。

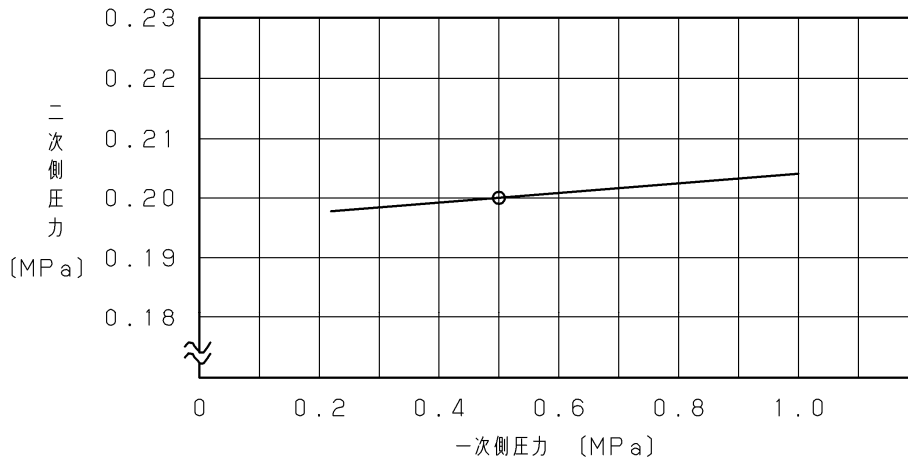
4. 流量特性線図



5. 騒音特性線図(逆止弁を除く)

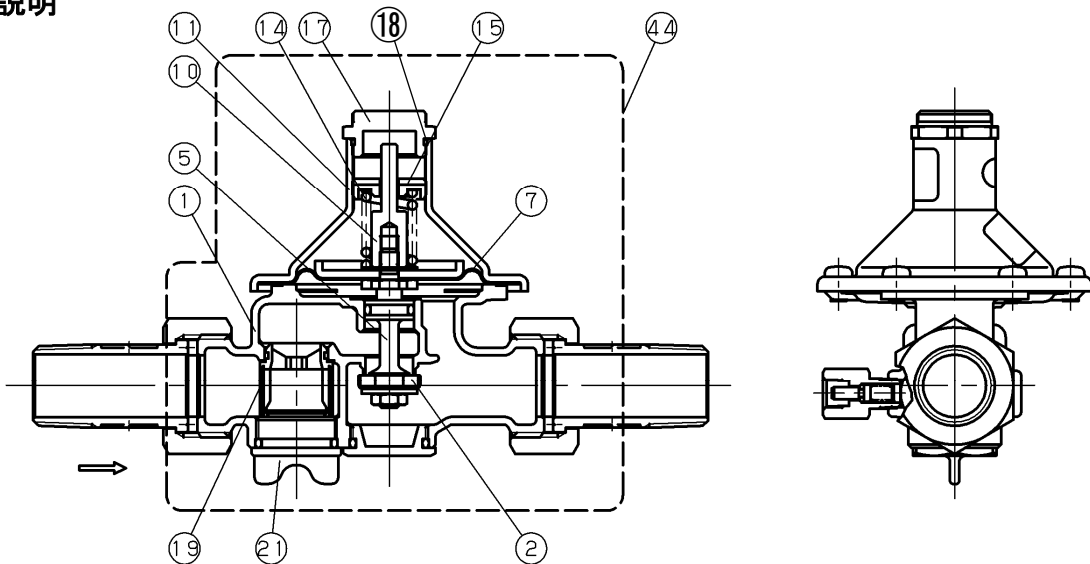


6. 圧力特性線図



一次側圧力0.5MPaの時、二次側圧力を0.2MPaに設定し、一次側圧力を0.22～1.0MPaに変化させたときの二次側圧力の変動を示す。

7. 作動説明



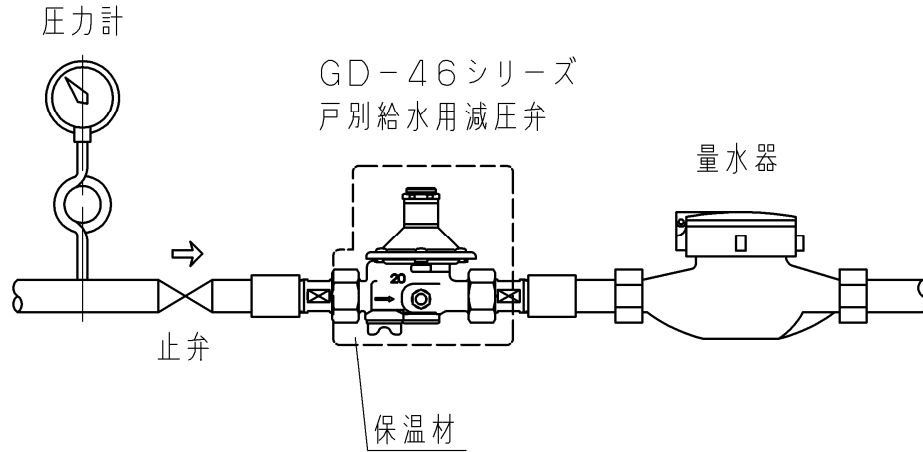
No.	部品名	No.	部品名
1	弁箱	15	調節ねじ
2	弁体	17	キャップ
5	弁棒	18	Oリング
7	ダイヤフラム	19	ストレーナ
10	袋ナット	21	ストレーナキャップ
11	ばねカバー	44	保温材
14	調節ばね		

通水前、調節ねじ⑮により圧縮された調節ばね⑭が、ダイヤフラム⑦を押し下げており、弁棒⑤を介して直結された弁体②は開いています。

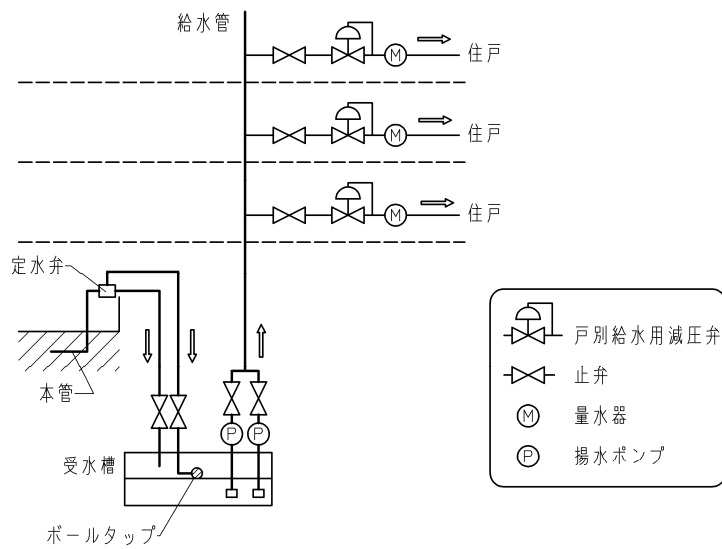
通水が始まると、一次側より入った流体はストレーナ⑲を通り、弁体上部より二次側へ流出すると同時に、二次側圧力として直接ダイヤフラム⑦に働きます。ダイヤフラム⑦へ加わった二次側圧力は、調節ばね⑭からの力とバランスをとりながら弁体②の開度を調整し、二次側圧力を一定圧力に保ちます。

8. 設置要領

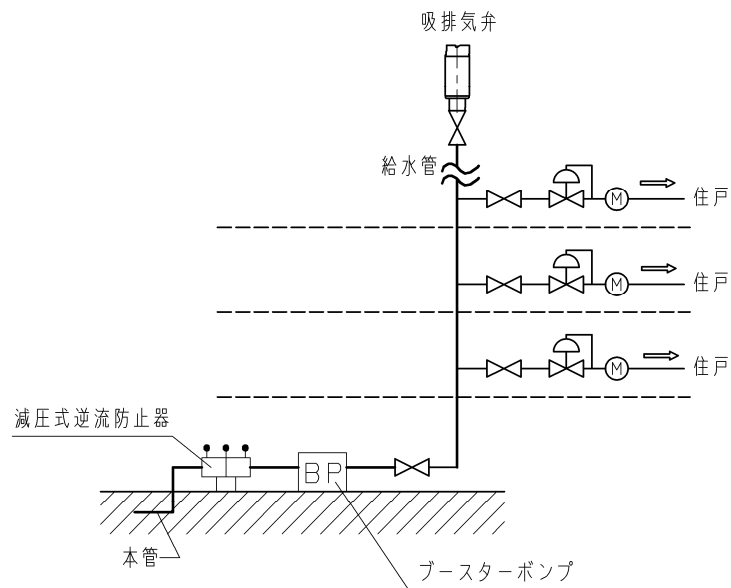
8.1 配管図例



〔例1〕



〔例2〕



8.2 設置時の注意事項

⚠ 注意

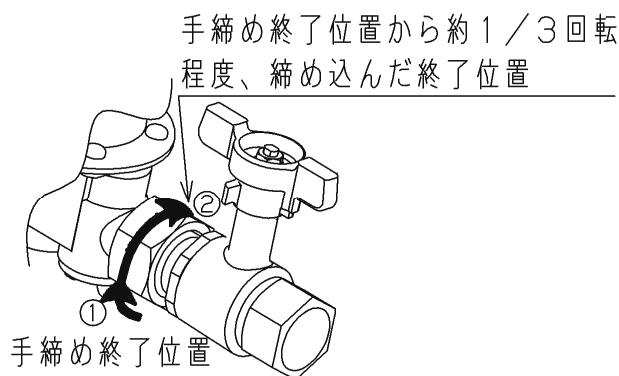
- (1) 製品は、むやみに分解しないでください。
※工場出荷時に厳密な検査をしております。むやみに分解しますと、製品の機能が損なわれる恐れがあります。
- (2) 製品を配管する際、配管内の異物・スケール等を必ず除去してください。また、配管接続に使用するシールテープなどが、配管内に入らないようにしてください。異物・スケール・シール剤等が混入しますと、作動不良などの原因になります。
- (3) 弁箱の矢印と流体の流れ方向が同一方向になるように配管してください。なお、配管の方向(水平・垂直)は任意です。
※間違っ取り付けると、製品の機能を果たしません。
- (4) 配管する時は、傾き(配管芯ズレ)や面間寸法に注意して配管してください。
- (5) 温水でご使用の場合は、配管の伸縮対策を行ってください。
※配管の伸縮により製品が損傷し、外部漏れなどが発生します。
(参考:ステンレス鋼管の膨張係数 $17.3 \times 10^{-3} \text{mm/m/}^\circ\text{C}$)
- (6) GD-46□□□型逆止弁付の場合、付属の逆止弁内蔵の継手は、必ず減圧弁の二次側に取付けてください。
※一次側に取り付けると、流体が流れません。
- (7) 分解・点検のために、次頁の「分解・点検作業に必要な空間」に示す寸法以上の空間を確保してください。
※必要な空間がないと、分解・点検ができません。
- (8) 塩化ビニル管類を配管する場合は、接着剤が製品内に流入しないようにしてください。
※接着剤が製品に流入すると、ストレーナの目詰まりや合成ゴムが侵され、製品の機能を損ねる恐れがあります。
- (9) 管端コア内蔵製品の施工要領について
 - ①火を近づけたり、溶接作業等で高温にさらされないようにしてください。
※管端コアは高温により熱変形し本来の性能が活かされないことがあります。
 - ②コア内蔵メス継手について
給水用ライニング鋼管には「水道用塩化ビニルライニング鋼管」と「ポリエチレン粉体ライニング鋼管」がありますが、兼用形の管端コアを内蔵していますので管種を選ばず使用できます。
 - ③管の切断
管の切断は必ず管軸に直角に切断してください。
管の切断には自動金のご盤・自動丸のご盤等を使用してください。
注)1. パイプカッター・ガス切断・アーク切断・高速砥石切断は行なわないでください。
2. 管に付着した油は必ず除去してください。
※油に合成ゴムが侵され本来の性能が活かされないことがあります。
 - ④管の面取り
スクレーパー等の面取り工具を用いて管内面のカエリを軽く面取りしてください。
 - ⑤管のねじ切り
管のねじはJIS規格範囲内のねじを切ってください。またねじゲージにて必ずチェックしてください。
※規格を外れるような細いねじはコアを損傷させることがあります。
 - ⑥シール剤の塗布
防食シール剤(国土交通省機械設備工事共通仕様書適合品)を管のおねじ部及び管端部にむらなく塗布してください。

⑦管の接合

管の接合は、下記表の標準ねじ込み山数及び長さを参考にしてください。

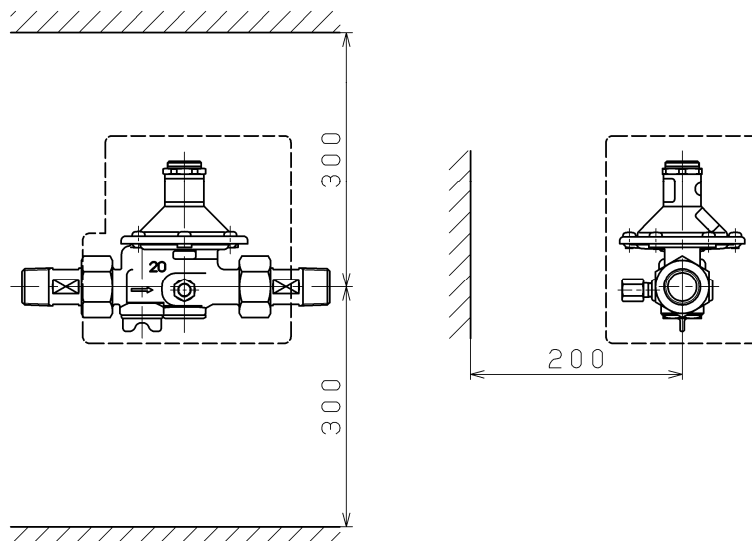
呼び径	標準ねじ込み 山数(山)	標準ねじ込み 長さ(mm)	標準締め付け トルク(N・m)
20A	6	11	60

- (10) 発泡スチロールは、保温材として使用してください。
- (11) 保温材の帯は取扱説明書です。配管後はいつでも参照できるように、必ず製品に添付して下さい。
- (12) 減圧弁にユニオン継手を取り付ける際、ユニオンナットの締め付け力は、ユニオンナットを手で締めて(①)、ガスケットに当たったところから約1/3回転程度ねじ込んで締め付けて(②)ください。
(下記図参照)
- ※増し締めは、外部漏れにつながります。



- (13) 製品が密閉配管状態の場合、流体温度上昇により配管内流体が体積膨張し、製品が損傷します。
- (14) 長期間製品内に流体を保有されると摺動部品が固着し、作動不良の原因になります。
- (15) 製品に無理な加重、曲げ、振動などが伝わらないように配管してください。
- (16) 電位差が生じる異種金属管は行わないでください。製品や部品が腐食します。
- (17) 使用条件(使用頻度や耐久性)を考慮した製品選定を行ってください。
- (18) 架橋ポリエチレン管のさや管(ヘッダー)施工の場合、支持金具等を用いて配管を固定してください。ユニオンパッキンに負荷がかかり、外部漏れの原因になります。
- (19) 圧力計は耐圧試験終了後、水圧を下げた後に取り付けてください。

●分解・点検作業に必要な空間



8.3 水圧検査時の注意事項及び検査方法

⚠️ 注意

- (1) キャップ⑰の取付・取外をする場合は、軍手等を着用して行ってください。
※怪我をする恐れがあります。
- (2) 水圧検査状態にて気密検査を実施する場合は、Oリング⑱に発泡液をかけないでください。
※水膨潤性Oリングのため膨潤します。膨潤によりOリングがシールし、ばねカバー内部が密閉となり作動不良となります。

- (1) 水圧検査前に配管の内部圧力がないことを確認してください。内部圧力がある場合は、圧力を抜いてください。
- (2) キャップを外し、裏返し(凹部を上にする)にしてばねカバーにねじ込んでください。
(図1)
※内部圧力がある状態でキャップをねじ込まないでください。
- (3) 水圧検査は、キャップの凹部が上の状態でねじ込まれていることを確認し、1.75MPa 以下の圧力で行なってください。
- (4) 水圧検査終了後、内部圧力抜いてから必ずキャップを元の状態(平面部を上にする)に戻してください。(図2)
※キャップを元の状態に戻さないと、減圧弁としての機能が働きません。

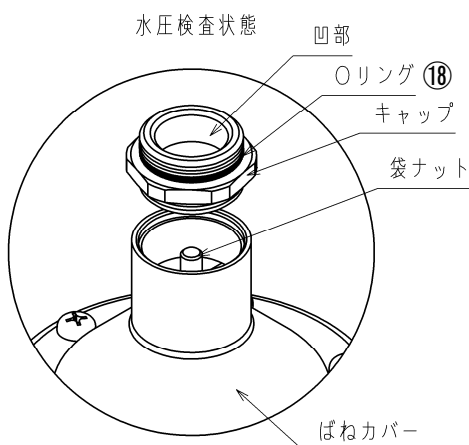


図1

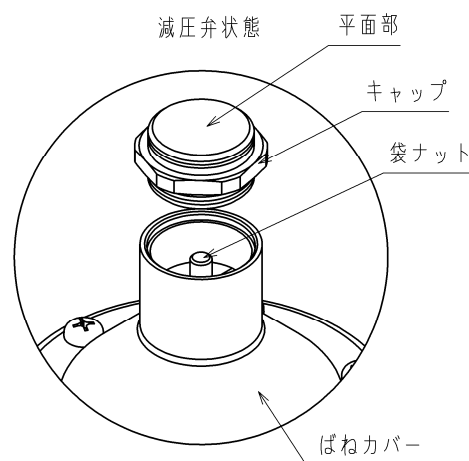


図2

9. 運転要領

9.1 運転時の警告・注意事項

⚠ 警告

流体が高温の場合、素手で直接製品に触れないでください。
※火傷をする危険があります。

⚠ 注意

- (1) 設定圧力は、標準設定圧力に調整済みです。むやみに変更しないでください。変更が必要となった場合は、熟練した専門の方(設備・工事業者の方等)が、製品のラベルに表示してある設定圧力範囲内で調整してください。「9.2 圧力調整方法」を参照ください。
- (2) キャップの平面部が、上になっている事を確認してください。
※凹側(リング側)が上にあると減圧機能が働きません。

製品廻りの温度(外気温度)や流体温度により設定圧力が変化する可能性があります。直接日光が当たるような配管はしないでください。

9.2 圧力調整時の注意及び圧力調整方法

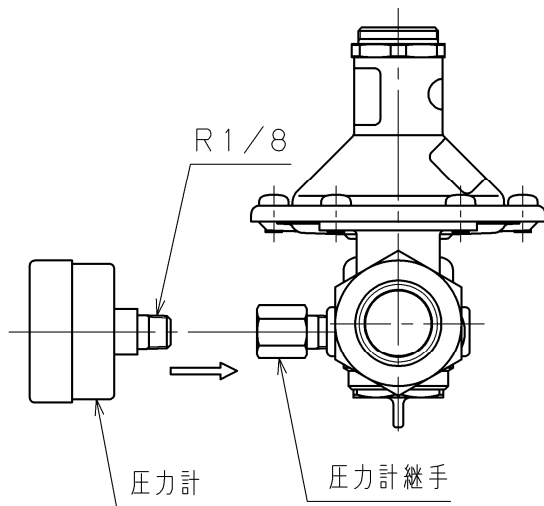


図3

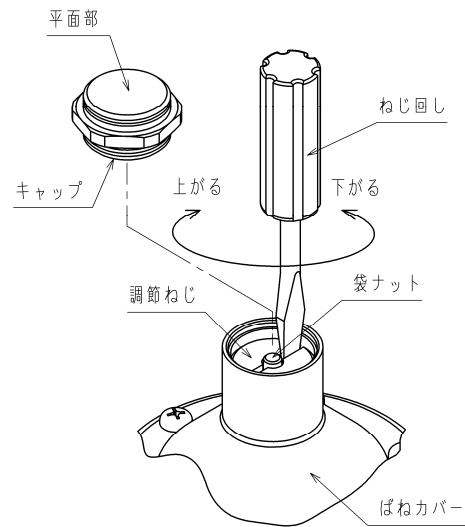


図4

- (1) 圧力計のねじ部(R1/8)にシールテープを巻き、圧力計継手にねじ込みます。(図3)
- (2) キャップを外し、圧力計を見ながら調節ねじを回転させ希望圧力に調整します。(図4)

- ・右(時計方向)へ回すと二次側圧力が上がります。
- ・左(反時計方向)へ回すと二次側圧力が下がります。

注) ねじ回しは、すりわり付きねじ用(マイナスドライバー)の呼び幅4.5~6を使用してください。

中心部に袋ナットがありますので、袋ナットを避けて調節ねじの溝にねじ回しを掛けて圧力調整をしてください。

圧力調整が困難な場合は、弊社に問い合わせをしてください。

- (3) 調整後はキャップを取り付けます。キャップは、平面部を上にして取り付けてください。

⚠ 注意

- (4) 圧力計は現地で接続してください。

調整を行い、圧力を確認した後必ず圧力計を取り外してください。

※圧力計を取り付けたまま御使用されますと、使用環境によって圧力計継手が破損(応力腐食割れ)し、外部漏れをおこします。圧力計を御使用される場合は、圧力計継手を取り外し、弁箱に直接圧力計をねじ込んでください。

10. 保守要領

10.1 故障と対策

(○印の番号は、「11. 分解図」を参照してください。)

故障状況	故障原因	対策及び処置
設定圧力以上に二次側圧力が上昇する。	<ol style="list-style-type: none"> 1. キャップ⑰が水圧検査状態のままである。 2. ダイヤフラム⑦が破損している。 3. 弁棒用リング⑥が損傷している。 4. 弁体②と弁座部との間に異物の噛み込みがあるか、または傷がある。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. キャップ⑰の平面部を上にして下さい。 2. ダイヤフラム一式を交換して下さい。 3. ダイヤフラム一式を交換して下さい。 4. 弁体②と弁座部の異物を除去して下さい。弁体②に傷がある場合は、製品を交換して下さい。弁座部に傷がある場合は製品を交換して下さい。
水の出が悪い。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 水垢等により弁棒用リング⑥が摺動不良を起こしている。 2. ストレーナ⑱が目詰りしている。 3. 設定圧力が低い。 4. 止水栓④が閉まっている。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 製品を交換して下さい。 2. ストレーナ⑱を掃除して下さい。 3. 調整方法に従い調整して下さい。 4. 止水栓④を開けて下さい。
外部漏れがある。	<ol style="list-style-type: none"> 1. なべ小ねじ⑳が緩んでいる。 2. 弁体キャップ㉑が緩んでいる。 3. リング㉒が損傷している。 4. ストレーナキャップ㉓が緩んでいる。 5. リング㉔が損傷している。 6. ユニオンナット㉕ ㉖ ㉗が緩んでいる。 7. ガasket㉘が損傷している。 8. 圧力計継手㉙が緩んでいる。 9. 圧力計継手㉙に異物の噛み込みがある。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. なべ小ねじ⑳を締め付けてください。 2. 弁体キャップ㉑を締め付けて下さい。 3. リング㉒を交換して下さい。 4. ストレーナキャップ㉓を締め付けてください。 5. リング㉔を交換して下さい。 6. ユニオンナット㉕ ㉖ ㉗を締め付けてください。 7. ガasket㉘を交換して下さい。 8. 圧力計継手㉙を外し、ねじ部にシールテープを巻き、弁箱①に取り付けてください。 9. 圧力計継手㉙を交換して下さい。

10.2 保守・点検時の警告・注意事項

⚠ 警告

- (1) 製品を分解・点検する時は必ず、製品や配管の内部圧力を完全に抜いてから、熟練した専門の方(設備・工事業者の方等)が行なってください。
※内部圧力がある状態で行なうと、流体が吹き出し、怪我をしたり周辺機器を汚したりします。
- (2) 流体が高温の場合、素手で直接製品に触れないでください。
※火傷をする恐れがあります。

⚠ 注意

- (1) 「10.1 故障と対策」に記載された内容以外の故障原因による場合は、弊社にお問い合わせください。
- (2) 分解時には、内部の流体が流出しますので、容器等で受けてください。
※周辺を汚す恐れがあります。
- (3) 長期休止された場合は、水道の蛇口を開けて水の出方を確認してください。
※水の出が悪い等の異常がある場合は、熟練した専門の方(設備・工事業者の方等)に点検を依頼してください。
- (4) 合成ゴム等は消耗部品です。使用条件によって大きく異なりますが交換時期の目安は、下記の通りです。

推奨交換時期	部品名、部品番号
3年	ダイヤフラム一式、弁体②
5年	リング⑬⑳⑱、 ガスケット⑳

※○印の番号は、「11. 分解図」を参照してください。
製品交換などは、量水器(水道メーター)の交換(有効期限8年)などに合わせて実施されることをご推奨します。

10.3 分解方法

- (1) キャップ⑰を外し、調節ねじ⑮を緩めて調節ばね⑭をフリー(ばねを無荷重)の状態にしてください。
- (2) ばねカバー⑪のなべ小ねじを6本取り外し、ばねカバー⑪・調節ばね⑭を取り出してください。
- (3) 弁体キャップ⑫(呼び27)を取り外してください。
- (4) 袋ナット⑩の六角部(呼び10)を固定し、弁体②の六角ナット④(呼び10)を取り外して下さい。
- (5) ダイヤフラム一式・弁体②・ワッシャー③を取り出してください。

10.4 故障の処置方法

- (1) 設定圧力以上に二次側圧力が上昇する場合
キャップ⑰の状態を確認し、正常な場合は「10.3 分解方法」(1)～(5)の手順で分解し、ダイヤフラム一式・弁箱①・弁体②を確認してください。
- (2) 水の出が悪い場合
止水栓④、ストレーナ⑱及び設定圧力を確認し、正常な場合は「10.3分解方法」(1)～(5)の手順で分解し、弁箱①及びダイヤフラム一式を確認してください。
- (3) 外部漏れがある場合
漏れが発生している部分の緩みを確認し、緩みがある場合は締め付けてください。締め付けても漏れが止らない場合は、漏れが発生している部分のリングまたはガスケットを交換してください。

10.5 組立時の注意事項

⚠ 注意

- (1) 弁箱内部及び各部品に異物等の付着物が無いことを確認してください。
※異物等があると本来の性能が活かせません。異物等を除去してください。
- (2) 弁体、Oリングにキズ等の無いことを確認してください。
※キズ等があると本来の性能が活かせません。部品を交換してください。
- (3) Oリングにシリコングリス(人体に無害なもの)を塗布してください。
※シリコングリスを塗布しないと、Oリングを傷付ける原因となります。

組立は、分解方法と逆の順序で組立ててください。

ばねカバー①①のなべ小ねじ②③を締め付ける場合は、片締めにならないよう対角線上に締めつけてください。

10.6 ストレーナ掃除時の警告・注意事項及び掃除方法

⚠ 警告

- (1) 製品を分解・点検する時は、必ず製品や配管の内部圧力を完全に抜いてから、熟練した専門の方(設備・工事業者の方等)が行なってください。
※内部圧力がある状態で行なうと、流体が吹き出し、怪我をしたり周辺機器を汚したりします。
- (2) 流体が高温の場合、素手で直接製品に触れないでください。
※火傷をする恐れがあります。

⚠ 注意

- (1) 年に1~2回以上、定期的に掃除してください。
※スケール等が溜まり過ぎると、流量が低下し本来の性能が活かせません。
- (2) ストレーナキャップを外す時は、流体を容器等で受けてください。(図6)
- (3) ストレーナは、ストレーナキャップから外さないで掃除してください。
※ストレーナが破損する恐れがあります。

- (1) 一次側の仕切弁を閉止し、末端の蛇口を開け、製品の内部圧力を完全に抜きます。
- (2) ストレーナキャップを左へ回し外します。
- (3) ストレーナを、ストレーナキャップに取り付けたまま水洗いし、溜まったスケールを取り除きます。
- (4) ストレーナ及びストレーナキャップを弁箱に組み付けます。
- (5) 一次側の仕切弁を開け、ストレーナキャップ部より漏れが無いことを確認します。漏れがある場合は、Oリングを交換してください。
- (6) 末端の蛇口を開け、流体が出ることを確認します。

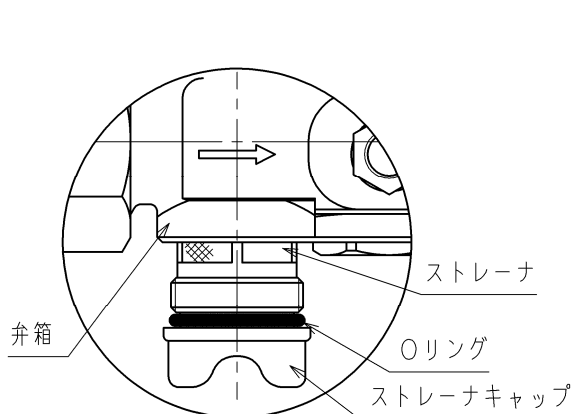


図5

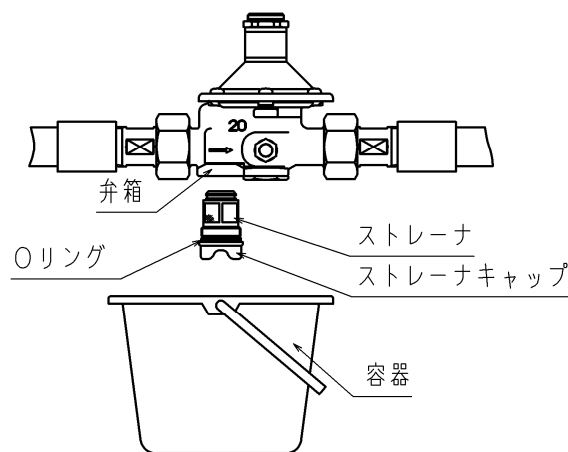
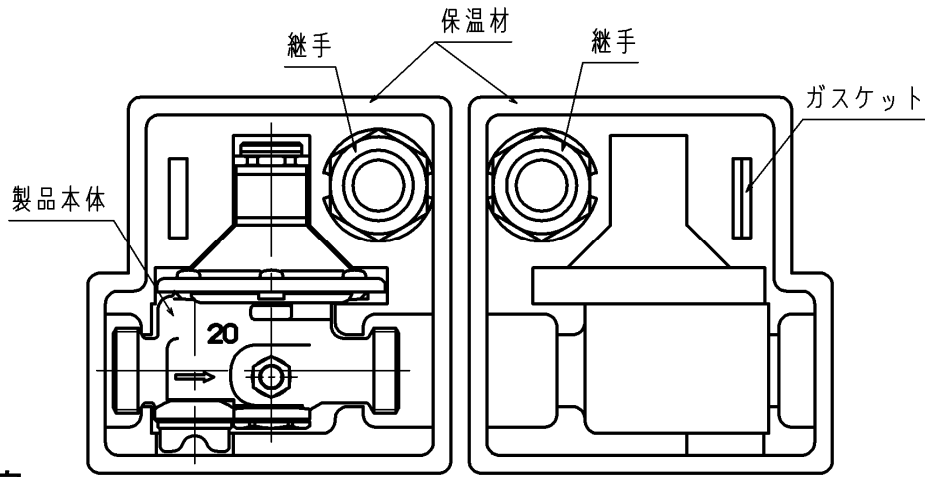


図6

12. 梱包

12.1 荷姿



12.2 梱包内容

型 式	製品本体	継 手						ガスケット
		P継手	L継手	K継手	P継手 逆止弁付	L継手 逆止弁付	K継手 逆止弁付	
GD-46	1	—	—	—	—	—	—	2
GD-46PP	1	2	—	—	—	—	—	2
GD-46LL	1	—	2	—	—	—	—	2
GD-46KK	1	—	—	2	—	—	—	2
GD-46PL	1	1	1	—	—	—	—	2
GD-46LP	1	1	1	—	—	—	—	2
GD-46PK	1	1	—	1	—	—	—	2
GD-46KP	1	1	—	1	—	—	—	2
GD-46PG	1	1	—	—	—	—	—	2
GD-46GP	1	1	—	—	—	—	—	2
GD-46LG	1	—	1	—	—	—	—	2
GD-46GL	1	—	1	—	—	—	—	2
GD-46KG	1	—	—	1	—	—	—	2
GD-46GK	1	—	—	1	—	—	—	2
GD-46PPC	1	1	—	—	1	—	—	2
GD-46LLC	1	—	1	—	—	1	—	2
GD-46PLC	1	1	—	—	—	1	—	2
GD-46LPC	1	—	1	—	—	—	—	2
GD-46KKC	1	—	—	1	—	—	1	2
GD-46PKC	1	—	—	—	—	—	1	2
GD-46KPC	1	—	—	1	1	—	—	2
GD-46GPC	1	—	—	—	1	—	—	2
GD-46GLC	1	—	—	—	—	1	—	2
GD-46GKC	1	—	—	—	—	—	1	2
GD-46SG	1	—	—	—	—	—	—	2
GS-46SP	1	1	—	—	—	—	—	2
GD-46SL	1	—	1	—	—	—	—	2
GD-46SK	1	—	—	1	—	—	—	2
GD-46SPC	1	—	—	—	1	—	—	2
GD-46SLC	1	—	—	—	—	1	—	2
GD-46SKC	1	—	—	—	—	—	1	2
GD-46D	1	—	—	—	—	—	—	—
GD-46SD	1	—	—	—	—	—	—	—

止水栓は、別梱包です。

アフターサービスについて

1. 納入品の保証範囲及び保証期間

納入された製品は高度の技術と厳しい品質管理の基で製造いたしております。取扱説明書、本体貼付ラベル等の注意書に従って正しくご使用ください。万一材料または製造上の不具合がありました場合には、無料で修理させていただきます。

納入品の保証期間は、ユーザー様に納入し試運転開始後1ヶ年とさせていただきます。

2. 製造中止後の部品の供給について

製品は予告なく製造中止、改良を行うことがございます。製造中止した製品の部品の供給は、中止後5年間とします。但し、個別契約に基づく場合は除きます。

3. 保証期間内でも次の場合には、有料修理になります。

(1)配管内のゴミ等による弁漏れ、または不安定作動が起こる場合。

(2)不当な取扱い、または使用による場合。

(3)消耗のはなはだしい部品などで、弊社から予めその旨申し出を行っている場合。

(4)異常水圧、異常水質等の供給側の事情による場合。

(5)水垢もしくは凍結に起因する場合。

(6)電源、空気源に起因する場合。

(7)弊社以外の不適切な改造がされた場合。

(8)設計仕様条件を超えた過酷な環境下(たとえば屋外使用による腐食の場合など)での使用による場合。

(9)火災、水害、地震、落雷その他天災地変による場合。

(10)消耗部品(たとえばテクニカルガイドブックに記載されているリング、ガスケット、ダイヤフラムなど)

ここでいう保証は納入品単体の保証を意味するもので納入品の故障や瑕疵により誘発される損害については、含まれませんのでご了承ください。

4. 保証期間経過後、修理を依頼されるとき

修理により製品の機能が維持できる場合には、ご要望により有料で修理します。なお、アフターサービスについては、弊社ホームページ(www.yoshitake.co.jp)のサポート&サービスからお問い合わせ窓口一覧より最寄りの営業所までご相談ください。